



三浦雅士と1970年代の輝き——「ユリイカ」「現代思想」の軌跡

# 夢の明るい鏡

2025年10月4日|土|—2026年1月25日|日|



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10 TEL.027-235-8011 FAX.027-235-6512

<https://www.maobashibungakuken.jp>

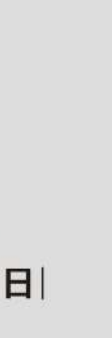
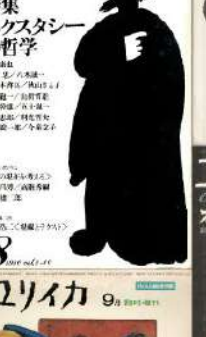
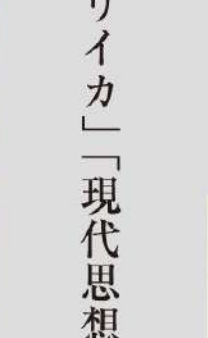
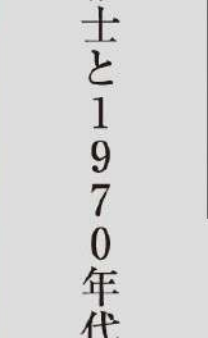
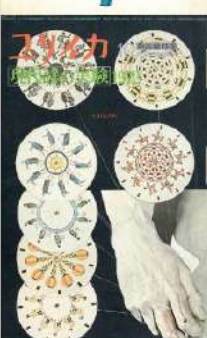
【開館時間】9時～17時（入館は30分前まで）休館日 水曜 年末年始（12月29日～1月3日）会場 2階企画展示室 ◎10月28日（火）14時～担当学芸員による解説（予約不要）  
【観覧料】700円 ※朔太郎展示室もご覧いただけます ※高校生以下・障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名無料  
【観覧無料の日】10月4日（土）展覧会初日 10月11日（土）12日（日）前橋まつり 10月28日（火）群馬県民の日 11月1日（土）萩原朔太郎生誕日 1月9日（金）初市まつり  
①10月4日（土）展覧会初日対談  
「1970年代から振り返る」キートン社における雑誌づくりの可能性を探る  
萩原朔太郎 三浦雅士  
三浦雅士 文芸評論家、現代思想編集委員、日本経済新聞記者  
②10月25日（土）対談  
「昭和20年」いま振り返り、語り継がれる戦時下の文化  
三浦雅士 文芸評論家、現代思想編集委員、日本経済新聞記者  
③11月24日（月祝）講演会  
「日本経済新聞 編集長 大岡信」講演、質疑応答、中絶の歴史  
三浦雅士 文芸評論家、現代思想編集委員、日本経済新聞記者

いずれも会場 前橋文学館 3階ホール 14時開演（開場13時30分）  
10月4日（土）以外に当日有効の展示観覧券が必要です。  
イベント：事前予約制（先着順）  
予約申込：9月8日（土）9時より  
TEL.027-235-8011



展示案内サイト

現代思想 1978  
特集 精神医学の29人  
現代思想 1979, 6  
特集 性 対幻象とはなにか  
現代思想 1979, 8  
特集 法とはなにか  
現代思想 1979, 9  
特集 イスラムの世界  
現代思想 1979, 10  
特集 一法とはなにか  
現代思想 1979, 11  
特集 武蔵野と北の国  
現代思想 1979, 12  
特集 武蔵野と北の国



# 夢の明い鏡

三浦雅士と1970年代の輝き——「ユリイカ」「現代思想」の軌跡

ヒッピーもスチューデント・パワーも、起こったのはみな1960年代後半のこと。1970年代は学生も市民も地味な生活に戻った時代でした。いわば話題になることの少ない時代。でも、本当にそうだったのでしょうか。じつは1970年代は多くの雑誌が創刊されるなど、知的活気に満ちた時代、兩次世界大戦を含む20世紀の全体を検証する時代だったのです。その一例として「ユリイカ」「現代思想」が挙げられます。

本展では、文芸評論家・三浦雅士が20代で編集者を務めた「ユリイカ」(1969年7月号～1975年1月号)と「現代思想」(1975年1月号～1981年1月号)を全冊展示し、1970年代が秘めていた知的情熱の一端を紹介します。会場では当時活躍した執筆者をはじめ、雑誌に触れて刺激を受けた方々のエッセイ、映像などを公開します(詳しくは本展HPをご覧ください)。

なお、三浦は1980年代に執筆活動に入りますが、その間、舞踊芸術にも強い関心を持つようになり、1990年代に「ダンスマガジン」などを創刊します。それらも一部展示します。



前橋文学館公式  
YouTubeチャンネル

## 三浦雅士 プロフィール

1946年、青森県生まれ。1969年、那珂太郎の紹介で、清水康雄の青土社設立と同時に入社。第2次「ユリイカ」創刊に立ち会う。初めは社長一人、社員一人の会社だった。数号で売れ行き不振のため廃刊を余儀なくされそうになるが、特集形式を採るよう進言し、那珂と相談のうえ萩原朔太郎特集を刊行、これで雑誌を持ち直させた。その後、宮沢賢治、中原中也など、増刊号、特別号などを次々に刊行し、「ユリイカ」を軌道に乗せた。1972年、編集長義人となる。1973年、清水は「ユリイカ」の成功に力を得て「現代思想」を創刊するが、1年半ほどで立ちゆかなくなる。後事を托さ

文芸評論家

三浦雅士が

1970年代、編集長として活躍した

雑誌「ユリイカ」・「現代思想」に

光をあてる

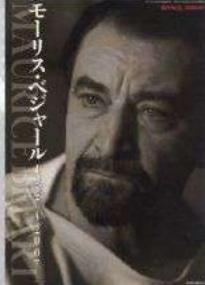
れた三浦は、1975年1月、「現代思想」編集長に転じ、吉本隆明、澁澤龍彦、山口昌男、柄谷行人、蓮見重彦、岸田秀ら、日本人執筆者に力点を置き、「現代思想」を軌道に乗せる。1981年、青土社を退社。執筆に転じるが、1984年から2年近くコロンビア大学特別研究員としてニューヨークに滞在、舞踊芸術の重大性に気づく。1991年、新書館編集主幹に就任、月刊「ダンスマガジン」を創刊し、編集活動に復帰する。主著に『私という現象』『身体の零度』『青春の終焉』『出生の秘密』『孤独の発明』など。なお、2013年から2016年まで萩原朔太郎研究会第5代会長を務めた。

本展への  
寄稿者紹介

川崎淡、飯吉光夫、村上陽一郎、富士川義之、吉増剛造、古川タク、藤井貞和、工藤庸子、池澤夏樹、辻原登、鈴木杜幾子、萩原朔美、平尾隆弘、丘沢静也、梅津時比古、朝吹亮二、柴田元幸、長谷川權、沼野充義、松浦寿輝、野崎敏、近藤一弥、阿部公彦、安藤礼二



ダンスマガジン7月号臨時増刊  
「坂東玉三郎の宇宙」  
1995年7月、新書館



ダンスマガジン3月号臨時増刊  
「モーリス・ベジャール1927～2007」  
2008年3月、新書館



ダンスマガジン別冊  
「大航海No.1」  
1994年12月、新書館



◎アクセス◎

電車 JR前橋駅北口から徒歩約15分 / タクシーで約10分  
上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分

バス JR前橋駅北口バスのりば

・3番のりばから「中央前橋駅」行き(シャトルバス)

「中央前橋駅」下車 徒歩約5分

・6番のりばから「荻窪公園・城公園」行き

「城東町二丁目バス停」下車 徒歩約5分

自動車 関越自動車道 前橋ICから車で約15分

※広瀬川サンワパーキング(市営P城東)のご利用に際しては、駐車券に

割引処理をいたします。



ダンスマガジン7月号別冊  
「大航海71号」  
2009年7月、新書館



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

〒371-0022群馬県前橋市千代田町三丁目12-10

TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512

https://www.maebashibungakukan.jp

①  
10月4日  
(土)  
展覧会  
初日対談

1970年代から振り返る

ネット社会における雑誌づくりの可能性を探る

三浦雅士 × 萩原朔美

文芸評論家。  
「ユリイカ」・「現代思想」元編集長。  
日本芸術院会員。

前橋文学館特別館長。  
「ビックリハウス」元編集長。  
映像作家。

関連  
イベント

②  
10月25日  
(土)  
対談

昭和時代、最後の20年

いま再びエディターシップが問われる時代

三浦雅士 × 松浦寿輝

文芸評論家。  
「ユリイカ」・「現代思想」元編集長。  
日本芸術院会員。

小説家・詩人・批評家。  
東京大学名誉教授。  
日本芸術院会員。

③  
11月24日  
(月・祝)  
講演会

吉本隆明、澁澤龍彦、大岡信

朔太郎、賢治、中也の後に

三浦雅士

文芸評論家。「ユリイカ」・「現代思想」元編集長。日本芸術院会員。

いずれも会場 前橋文学館3階ホール 14時開演(開場13時30分)  
10月4日(土)以外は当日有効の展示観覧券が必要です。

受付開始日

要予約・申込(先着順)は9月6日(土)9時より開始。  
前橋文学館へ TEL.027-235-8011

その他のイベント ◎10月28日(火) 14時～ 担当学芸員による解説(予約不要)

同時開催

前橋文学館

アーツ前橋企画 街なか展示  
マームとジブシー《Curtain Call》  
9月20日(土)～12月21日(日)

「私が描く朔太郎の世界」展  
1月4日(日)～1月20日(火)

アーツ前橋

「ゴースト 見えないものが見えるとき」  
9月20日(土)～12月21日(日)